

聖書:ヨハネの福音書16章5～16節

説教:あなたがたのところに助け主を遣わします

1 聖霊が降る

1) 約束

今朝は「ペンテコステ礼拝」と銘打っておりま
す。そもそもペンテコステとは何か。さきほどノア
のじかんでも語ったことですが、もう少し詳しく説
明しましょう。

イエス・キリストが十字架にかけられて死んでか
ら三日目に、死からよみがえられ、四十日にわたっ
てそのお姿を弟子たちに現されました。そのとき
イエスは使徒たちにこう言われました「エルサレ
ムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待
ちなさい。ヨハネは水でバプテスマを授けました
が、あなたがたは間もなく、聖霊によるバプテス
マを授けられるからです。」（使徒の働き1章4, 5
節）そう言われて、イエスは天に上げられ、姿が見
えなくなりました。

2) 五旬節の日

それで弟子たちはイエスの指示に従ってエルサレ
ムにとどまって待っていた。そうして五旬節の朝を
迎えます。イエス・キリストが十字架にかけられた
のが、過越の祭りのときでした。その過越の祭り
から数えて五十日目にユダヤ教の例大祭である五
旬祭が毎年行われていた。もともとは、モーセが
シナイ山で十戒を授かったことを祝う祭りだった
のが、ちょうど小麦の収穫の時期であることから
後に小麦の収穫を祝う祭りとなりました。ここで
少し計算です。過越の祭りから数えて五十日目が五
旬節。よみがえられて弟子たちに現れた期間が四十
日間。そうすると弟子たちはイエスが天に上げられ
てから十日間待ったことになる。その十日目のこ
とです。皆がひとつ所に集まっていると大きな響き
とともに聖霊が降り、みな聖霊に満たされて
様々な外国語で突然話し始めた。これがペンテコ
ステの由来です。きょうは二つ視点から聖霊のこ
とを見てまいります。一つ目、聖霊はどんな働きを
するのか。二つ目、聖霊はどのようにして私たちに与
えられるのか。

2 御霊の働き

1) 罪：十字架で死んで下さった方

まず聖霊の働きについて。8節から11節を読みま
す。「その方が来ると、罪について、義について、
さばきについて、世の誤りを明らかになさいます。

罪についてというのは、彼らがわたしを信じない
からです。義についてとは、わたしが父のもとに行
き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるから
です。さばきについてとは、この世を支配する者が
さばかれたからです。」

その方とは聖霊のことです。聖霊は、罪、義、さ
ばき、この三つについて世の誤りを明らかにする
という。順番に見ていきましょう。まず罪につい
て。聖書における罪とは、わたし、イエス・キリ
ストを信じないことだとある。

私たちは信じる前のことを思いだしてください。
罪の基準をどのように決めていたか。罪というの
は、警察に捕まるようなことで、人に迷惑をかけ
なければ少々嘘をついてもいいし、少々悪いこと
をしてもかまわない。罪の基準をこんなふうに自分
に都合よく書き換えていっていた。サッカーで言え
ば、ゴールポストを自分のチームに都合のよいよう
に動かして、敵のボールが入らないようにしている
のと同じ。ちょっと後ろめたさを感じながら、
「まあいいや」と言っておまかしている。これが世
の罪の基準。

では聖書はどうか。たとえばモーセの十戒にあ
る「殺してはならない」を聞いても多くの人は言う
でしょう。私は人を殺してません。そこで安心して
はいけない。イエスはこう言われたのです。心の中
で「あんなやつ死んでしまえ」と呪っているなら、
あなたは立派に人を殺したのだ。そうしたら私は
罪がないと言えるものはひとりもいなくなる。そ
の罪から私たちを救うためにイエス・キリストが
十字架でさばきを受けられて死んでくださった。だ
から救われるために、イエス・キリストを信じな
さい。信じなければ罪の中にとどまることにな
る。聖霊は、キリストを信じるようにと人々を促
し、世の人たちが信じている罪の基準が間違っ
ていることを示す。これが一つ目。

2) 義：死からよみがえられた方

二つ目。「義についてとは、わたしが父のもと
に行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなる
からです。」

義というのは、神が定めた正しい基準のこと
です。そのこととイエス・キリストが天に上げられ
るのどうつながるのかわかりにくい。そこで、こ
れもまた先ほどと同じように信じる前、私たちは

何をしていたのか思い出せばよい。子どものときに嘘をついてはいけなさと教えられたのに大人になると平気で嘘をつき、ばれなければ自分は正しいと言い張り、ばれてしまえば運が悪かったのだと嘆く。考えてみればまことにあやふやな義です。これが世の人たちの義です。

では神の義はどうか。イエス・キリストが死からよみがえられたのはなぜかです。この方は神だから、自分の力でよみがえられたのだ。単純にそう思っていたかもしれませんが。私はかつてそう思い込んでいた。そうではありません。イエスは神の子ではありませんが、私たちとおなじ姿となられた完全な人間とられました。十字架ですべてのものを捨ててくださり、いのちまでもお捨てになりました。でもただ一つだけ捨てなかったものがあつた。信仰です。この方は十字架の上で罪有るものとされてさばかれたのに、なぜよみがえられたのか。真理は一つです。信仰によって義と認められたから。その方を信じたらどうなるか。ローマ人への手紙3章22節にこうある。「イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別はありません。」

これは世の人たちが考える義とまったくちがいます。本当の義は、十字架で死んでよみがえられ天に上げられたイエスにしかありません。

3) さばき：世を支配する者

聖霊が明らかにしてくださる世の誤りの三つ目。「さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。」みなさんはこの世を支配しているのは誰だと思いますか。どこか大きな国の大統領ですか。あるいはどこかの大富豪か。あるいはユダヤ人か、なんとかメイソンというような秘密結社が世の中を動かしているのか。そんな話しが世の中に出回っているようです。「黒幕はどこそこの誰誰だ」そう言われると、モヤモヤしていた霧が晴れるようでわかりやすいわけですが本当か。

大切なのは聖書ではなんと言っているかです。この世界は、悪霊が支配していると書いてある。こう言うとか何かオカルトのような気味が悪い話しに聞こえるかもしれませんが。そうではない。簡単に言えば、イエス・キリストを信じないようにさせる働き。それらはすべて悪霊の働きだと言っている。

キリストを信じないようにするためにどうするか。これはもう創世記に書いてある蛇のやり方を思い出せばよい。蛇に誘惑されたときのエバ様子はこうです。「女が見ると、その木は食べるのに良

さそうで、目に慕わしく、またその木は賢くしてくれそうで好ましかった。」（創世記3章6節）悪魔のやり方は大いに参考になります。「目に慕わしい。」まず目で誘惑してくるというのです。それから「食べるのに良さそう。」食べることですね。おいしそうに見せて誘惑する。そしてとどめは「賢くしてくれそうだ。」あなたをもっとすばらしい人間にしてあげますよ。そうやって蛇は誘惑する。考えてみると、私たちが目にする広告はみなこの類です。すべてが悪いとは言いませんが、悪霊はこうして世界を支配し、キリスト教なんか信じなくて大丈夫。もっとすばらしいものを手に入れて幸せになりましょう。そのように誘惑してくる。

そんな世界に私たちはおかれているけれど大丈夫なのか。大丈夫です。悪霊はすでにさばかれています。今は一時だけ、悪霊が動き回っているようにみえるけれど、すでに悪霊のかしらは縛り付けられて自由を奪われている。世の人たちはそのことに気がついていない。なので、あの人がこう言ったと聞けば、あっちに走り、この人がこう言ったと聞くと、別の方に走り、右往左往して結局疲れきってしまうだけ。それがこの世の中。

でも私たちは動かされません。なぜなら聖霊が真理を教えてくださいから。もう世のことばに振り回される必要はない。もちろん疲れることはあるでしょう。でもすぐに回復できる。動揺することはあるでしょう。すぐに落ち着く。これほど精神的に楽なことはない。これが聖霊の働きです。

3 イエス・キリスト

1) しばらくすると去る

では次にこの聖霊はどのようにして私たちに与えられるのかをみていきます。7節にこうあります。「しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのです。去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はおいでになりません。でも、行けば、わたしはあなたがたのところに助け主を遣わします。」

みなさんは、一度でいいからイエスのお顔を見たいと思ったかもしれません。ですが残念ながらありません。私たちのところから去っていくというのです。この方の前には十字架という大きな仕事がかかっています。十字架で死ぬことにより、神が罪をさばく方であることを示し、この方がよみがえることによって神の義がどこにあるかを教える。そして天に上げられて、聖霊を遣わして下さるようにと父にお願いをするのだというのです。だから「あなたがたの益になる」と言われる。

2) 助け主

私たちはこの聖霊をいただいております。信じた後はひとりでがんばって信仰を守ってがんばれ、ではない。この聖霊は助け主とも呼ばれています。聖霊なる方が私たちを助けてくださる。その方と一緒に歩いていく。だから安心しなさい。聖霊は道案内人です。道に迷うことがあったらどの道がまちがいか論してくださり、どちらが真理の道であるかを教えてくださる。どんなに頭が鈍くてで忘れやすくても、聖霊が働いてイエス・キリストのことを思い出させてくださる。これほど力強い味方があるでしょうか。

聖霊がよくわかり、とみなさんおっしゃいます。でももし私たちがイエス・キリストこそ主ですと告白しているのなら、それこそが聖霊をいただいている証拠です。世は罪は何か義とは何か、混乱して何が正しいか誰もわからない状態です。でも私たちは迷わない。聖霊に導かれながらこの一週間も歩んでまいります。